

薬には病気を治したり、^{しやうじやう}症状をやわらげたりする効果がある一方、副作用があらわれることがあります。医師に指示された用法・用量にしたがって使用してください。体調が良くなったと自分で判断し、使用することをやめたり、量を加減したりすると、病気が悪化することがあります。薬のことでわからないこと、心配なことなどがありましたら、医師や^{やくざいし}薬剤師に相談してください。

メプチン錠 50μg

一般名： プロカテロール塩酸塩水和物 (Procaterol Hydrochloride Hydrate)

販売名	メプチン錠 50μg
形状	

1.どんな薬

- この薬は、気管支の筋肉に働きかけて、^{せま}狭くなった気道を広げ、呼吸を楽にします。[気管支^{かくちやうざい}拡張剤]
- 気管支喘息、慢性気管支炎、肺気腫、急性気管支炎の治療に用いられます。

2.この薬を使用できない人、特に注意して使用する必要がある人

- ⊗ 次の人はこの薬を使用できません。必ず医師や^{やくざいし}薬剤師に相談してください。
 - ・過去にメプチン錠に含まれる成分で^{かびんしやう}過敏症があった人
- 次の人は特に注意が必要です。使い始める前に医師や^{やくざいし}薬剤師に相談してください。
 - ・^{こうじやうせんきのうこうしんしやう}甲状腺機能亢進症（^{こうじやうせん}甲状腺機能が高い）の人
 - ・高血圧の人
 - ・心臓に障害のある人
 - ・^{とうじやうびやう}糖尿病の人
 - ・^{ていさんそけっしやう}低酸素血症（血液中の酸素が少ない状態）の人
 - ・^{にんが}妊婦 または ^{にんしん}妊娠している可能性がある人
 - ・授乳中の人
- この薬には一緒に使用してはいけない薬や、一緒に使用する場合に注意が必要な薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師や^{やくざいし}薬剤師に相談してください。

3.この薬を使うにあたり注意すべき副作用・注意すべきこと

- この薬の使用により、以下のような^{しやうじやう}症状があらわれることがあります。これらの^{しやうじやう}症状に気づいたら、医師や^{やくざいし}薬剤師に相談してください。

主な ^{しやうじやう} 症状	考えられる副作用など
めまい、ドキドキする、脈が遅くなる、気を失う、脈がとぶ	不整脈 [心臓に障害のある人]
ドキドキする	^{どうき} 動悸 [心臓に障害のある人]

〈この薬を使用されるすべての方に共通〉

- 決められた使い方や量で使用しても効果がみられない場合は、この薬が合っていない可能性があるので、医師に相談してください。
 - この薬を使いすぎると、不整脈（脈が乱れる）、場合によっては心停止（心臓が止まる）を起こすことがあります。使いすぎないように注意してください。
- 〈^{きかんしぜんそく}気管支喘息、^{まんせいきかんしえん}慢性気管支炎、^{はいきしゆ}肺気腫の場合〉
- この薬を使っている間に急な発作が起きた場合は、短時間で効く吸入^{しげきざい}β2刺激剤などの他の適切な薬を使うようにしてください。また、その薬の使用量が増えたり、効果が十分でなくなってきた場合は、病気の管理

が十分でない可能性があるので、できるだけ早く医療機関を受診してください。

〈気管支喘息の場合〉

- この薬は吸入ステロイド剤などの抗炎症剤（炎症を抑える薬）の代わりにはなりません。症状が良くなったと感じても、医師の指示なしに吸入ステロイド剤などを減らしたりやめたりして、この薬だけを使うことはしないでください。
- この薬を使っている間に、急な発作に対して短時間で効く吸入β2刺激剤などの使う量が増えたり、効果が十分でなくなってきた場合は、命にかかわることがありますので、医師に相談してください。

4. ほかに知られている副作用

「3. この薬を使うにあたり注意すべき副作用・注意すべきこと」に記載されている副作用のほか、比較的よくみられる副作用の一例は以下のとおりです。これら以外の副作用もあらわれることがあります。これらの症状や、普段と異なる症状に気づいたら、医師や薬剤師に相談してください。

主な症状	考えられる副作用
手足のふるえ、首のふるえ	振戦
頭が痛い	頭痛
吐き気	嘔気

5. 保管方法

光と湿気をさけて室温（1～30℃）で保管してください。

6. 問い合わせ先

症状、使用方法、副作用などについて不明な点がある場合は、医師や薬剤師におたずねください。

この製品に対する一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売業者：大塚製薬株式会社 (<https://www.otsuka.co.jp>)

電話：0120-922-833（医薬情報センター）、受付時間：9時～17時（土、日、祝日、休業日を除く）

※医薬品副作用被害救済制度：お薬は正しく使っていても、副作用が起こることがあります。もしも副作用で重い健康被害が生じた場合に、医療費や年金などの給付が受けられる公的な制度です。

制度の詳細はこちらをご覧ください。

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

なお、抗がん剤、免疫抑制剤や抗ウイルス薬などにはこの制度の対象にならないものがあります。対象外となる医薬品はこちらから検索いただけます。

<https://www.pmda.go.jp/relief-services/adr-sufferers/0022.html>